

# H28年度 中部中学校区 「小中一貫教育」 研究構想図

浜松市教育総合計画 教育目標  
「未来創造への人づくり」と「市民協働による人づくり」の実現

中部中学校区教育目標  
「高い志をもち、たくましく生きる子ども」の育成

「はままつの教育」のモデルとして、小中一貫校の良さを生かした質の高い教育を展開し、「ふるさと浜松」に貢献できる人づくり

**「志をもって、本気で努力する子」**  
**「自他の良さに気づき、互いに高め合える子」「地域や社会のために貢献できる子」**

## 研究主題

小中9年間「学びの発達段階(4-2-3制)」に応じた「分かる授業」を目指して ～確かな学力を育成する指導法の工夫～

### ～ 研究目的1 ～

確かな学力を育成するための指導法の研究を進めることで、教員の指導力と、子どもの学力・自尊心・人間関係能力等が向上し、自らを高めようとする子どもの具現に迫る。

### ～ 研究目的2 ～

「つなぐ」をキーワードに児童・生徒同士、学園生と地域人材・企業、学園生と地域の施設等をつなぐ研究を進めることで、質の高い指導を展開する。そして、人間関係能力向上、ふるさとに夢と誇りをもち将来の夢の実現に向かって伸びていくたくましい子の育成を目指す。

### ◇学習内容の「系統性」と「関連性」の研究

- ・各研究部における、発達段階に応じた「目指す子ども像」と「身に付けたい力」の設定
- ・学区の特性（周辺施設や人材等）を生かした9年間の教科・領域の年間指導計画と全体計画の検討
- ・教科・領域の評価規準と評価方法の研究 等

### ◇指導方法の「連続性」と「継続性」の研究

- ・各研究部における、「学びの発達段階」に応じた「分かる授業」の展開と確かな学力を育成する指導法の工夫
- ・学区の特性（周辺施設や人材等）を生かした教育資源の活用
- ・「学習・生活の約束」の摺り合わせ
- ・異年齢集団の交流、リーダー育成、キャリア教育の推進 等

## 中部中学校区 小中一貫教育の基盤

### ◇小中9年間「学びの発達段階」に応じた指導

- ・小中の価値観・指導観の違いや子どもの発達段階の特性の相互理解を深める研修
- ・小中参観授業及びワークショップ型の事後研修、小中兼務、合同行事のPDCA 等

小中それぞれの教育に対する価値観・指導観などを相互理解し、小中9年間「学びの発達段階」に応じた学習内容の「系統性と関連性」と指導方法の「連続性と継続性」を構築し、小中一貫教育の成果と課題を明らかにしその有用性を探る。

- ① 「はままつの教育」：「夢と希望」「社会を生き抜く資質や能力」「自分らしさ」「創造・自立・協働→自分を見つめる」
- ② 「新学習指導要領」：（「創造・自立・協働」「アクティブラーニング」「チーム学校（カリキュラムマネジメント）」等）
- ③ 今までの中部中学校区各小中の教育実践 及び 先進校の事例
- ④ 学区の特性

# 平成28年度研究構想

## 1 願う子ども像（中部中学校区で目指す子ども像）

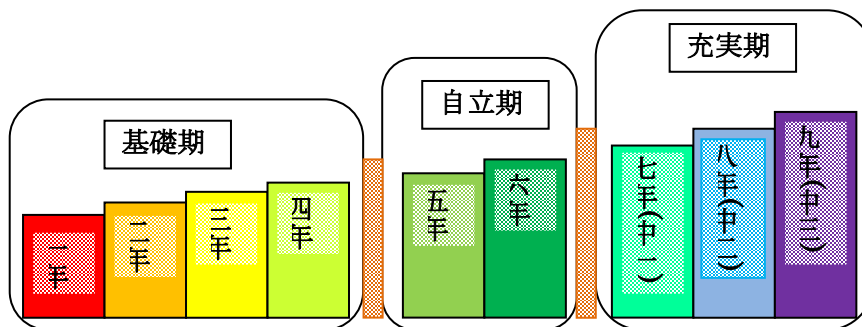
高い志をもち、たくましく生きる子ども

## 2 研究主題（中部中学校区の3校共通研究主題）

小中9年間「学びの発達段階（4-2-3制）」に応じた「分かる授業」を目指して  
～確かな学力を育成する指導法の工夫～

### (1) 「学びの発達段階（4-2-3制）」

区分	初等部 前期	初等部 後期	中等部
学年	1年～4年	5年・6年	7年～9年
発達段階	学びの基礎期	学びの自立期	学びの充実期
特色	学級担任制により、学習習慣の確立を図り、学びの基礎を築く。	自ら課題を解決していく機会を増やし、学びの自立を図る。	専門性の高い授業を準備し、学びの充実につなげる。



### (2) 「分かる授業」

できる喜びを味わわせ、成長を感じさせる授業。

- ・ 基礎的・基本的な知識や技能が身に付き、問われていることに正対して答えられる。
- ・ 子ども自身が「分かる」「できる」を実感する。  
(できない子が、できる。できる子がより一層できる。)

### (3) 「確かな学力」

基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する資質や能力 〔文部科学省：論点整理より〕

- ① 個別の知識・技能（～できる、～を理解している）
- ② 思考力・判断力・表現力等（知っていること・できることをどう使うか）
- ③ 学び続ける力（主体的に学習に取り組む態度→意欲、協働する力、粘り強さ等）